

ブラタモリから学ぶ ～秩父編・長瀨編に協力して～

主任学芸員 井上 素子

NHKの番組「ブラタモリ」をご存知でしょうか？タモリさんが全国各地を“ブラブラ”歩いて、時に地形や地質を紐解きながら、その町の歴史や文化の痕跡を発見していく番組です。高視聴率を維持するとともに、地理学や地質学の専門家が熱い視線を送っています。難解で敬遠されがちな地質現象について、地質学的な知識を持たない人さえ楽しませる力をもつ番組だからです。この6月にはブラタモリ制作チームが、日本地質学会の表彰を受けています。

この度、7月15日に秩父編が、8月19日に長瀨編が放映されました。当館は、地質分野の学芸員が中心となり、ネタの提供、現地の案内、専門家や郷土史家の紹介、シナリオの地形学・地質学的な検証などについて協力しました。「専門的な内容をいかにわかりやすく伝えるか」は、学芸員が日々試行錯誤していることです。今回、番組制作に協力する過程で多くのことを学びました。

妥協なき取材・徹底的に現場で議論

ディレクターは、あらゆる専門家を取材し、多方面からネタを集めてられました。そして共に出演した産業技術総合研究所の地質学者、高橋雅紀氏とともに、何度も現地を歩いて検証しました。目の前の風景に対して素朴な疑問をぶつけるディレクターと、ずば抜けた地質センス（御本人によると「妄想力」）を持つ高橋氏と、現地で議論していただくことは、本当に勉強になりました。分かっているつもりになっていることもたくさんありました。例えば、岩畳に走る碁盤の目状の節理の成因は、改めて調べると、構造地質学の研究が盛んな長瀨においてもきちんと研究されていませんでした。これについては、早稲田大学の高木秀雄教授にも岩畳に足を運んでいただき、先生の見解をご教示いただきました。座学ではなくフィールドで議論することの大切さを再認識しました。

ストーリーを重視・正確さよりシンプルさ

秩父も長瀨も、地形・地質とくらしを結びつけ

る話題はととても豊富にあります。それをどうまとめるかがディレクターの腕のみせどころです。「秩父がず～っと日本を盛り上げた」という切り口には脱帽でした。そして「ストーリーに関係ないことは容赦なく切る！説明も、極限までシンプルに！」という姿勢は、大変勉強になりました。専門家も見ているブラタモリ。学芸員としては、つい「正確さ」に固執してわかりにくくしてしまいがちです。武甲山の石灰岩を「サンゴ礁」と言い切るのも、本当は勇気のいることなのです。

本番に臨んで

いざ撮影に臨むと、本当にぶっつけ本番であることに驚きました。タモリさんはシナリオを全く知らずに収録。「はじめまして」とあいさつする時が本当に初対面で、収録中以外、話はできません。タモリさんは想像をはるかに超えて地質学の素養があり、とても動揺しました。知識なら勉強できるのですが、岩石を同定する（種類を見分ける）ことは、経験を積まなければできません。長瀨編では、タモリさんはいきなり荒川の河原の石の観察をはじめて次々と名前を言い当て、当館の岩石園では、ほとんどの岩石をひとつひとつ見ていかれました。タモリさんと石についてあれこれ話すのは、とても楽しく、本当は詳しく説明しなかったのですが、こちらは案内人として番組の構成どおり進行しなければならず、辛いところでした。収録後、「面白かったです。この博物館は一度見たかったんですよ。改めて中も見させていただけます。」と仰っていただきました。

秩父・長瀨の魅力を再認識

今回は、本来1本だった秩父編を、内容が豊富ということで2本にさせていただきました。そしてタモリさんに楽しんでいただいたことで、もっと多くの人に地質学の面白さを伝えられるという博物館の可能性も感じる事ができました。タモリさん、スタッフのみなさんありがとうございました。

(いのうえ もとこ・主任学芸員)